

# 第4期 郡山市教育振興基本計画案の概要

## 1. 計画案の概要

### (1) 計画策定の背景と趣旨

- ①概要 「郡山市教育振興基本計画」は、教育基本法第17条第2項の規定に基づき、本市における「教育振興の施策に関する基本的な計画」として位置付けられ、今後の本市教育の進むべき方向とその実現のために必要な施策等を明らかにするものです。
- ②対象分野 「学校教育」「生涯学習」の2分野

### (2) 計画策定の必要性

- 現計画（第3期）の計画期間が、令和6（2024）年度で満了すること
- 国の「第4期教育振興基本計画」{令和5（2023）年6月16日閣議決定}が策定されたこと

### (3) 計画策定の方針

- 国の「第4期教育振興基本計画」の2つのコンセプト、5つの基本の方針について、本市の実情に応じ、参酌します。

#### 【2つのコンセプト】

**持続可能な社会の創り手の育成**

- 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる
- 主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

**日本社会に根差したウェルビーイングの向上**

- 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングを向上
- 幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現等を調和的に育む

#### ウェルビーイングとは

- 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。
  - 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。
- 「郡山市まちづくり基本指針（あすまちこおりやま）」の教育にかかる基本事項（大綱や目標等）を踏まえつつ、教育委員会における最上位計画として体系的に整理します。

#### 【基本の方針】

- ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話



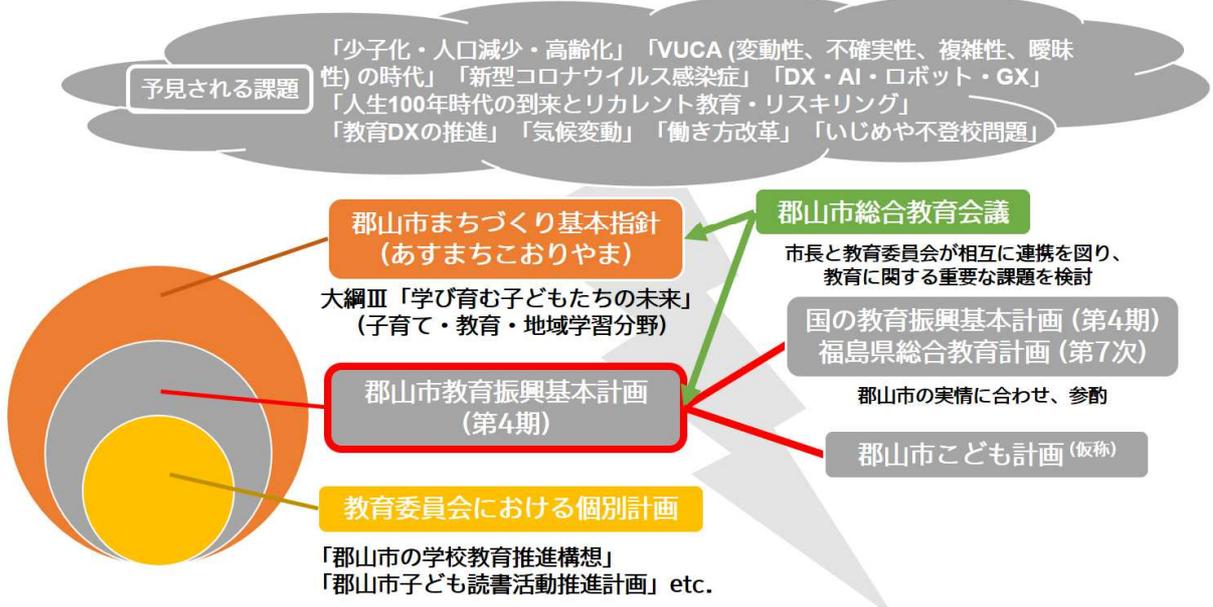
### (4) 計画期間 R7（2025）年度から R11（2029）年度まで（5年間）

2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
SDGs 国際目標 (2030 年目標)							
郡山市まちづくり基本指針 (-2025)			拡大版あすまちこおりやま (-2030)				
国の第4期教育基本計画 (-2027) 【5年間】							
県の第7次総合教育計画 (-2030) 【9年間】							
現計画 (第3期) 【5年間】		郡山市教育振興基本計画 (第4期) 【5年間】					

(5) 計画の位置付け

市政執行方針 「新時代100年創造都市実現型」 課題発見・解決先進都市の創生

基本コンセプト 一人ひとりのウェルビーイングと「学び」を高める 郡山の教育



2. 新計画における体系図 (イメージ)

基本理念 ともに学び、ともに育み、未来を拓く教育の創造

基本コンセプト 一人ひとりのウェルビーイングと「学び」を高める 郡山の教育



エコシステム：「生態系」を意味する生物学の専門用語で、地域の団体や人材が密接に連携し、地域の生涯学習環境を形成していることを表しています。

### 3. 新計画策定のポイント (前回策定との変更点)

#### (1) 基本コンセプトと重点分野の設定

新規

- 第4期計画を貫く基本コンセプトとして「一人ひとりのウェルビーイングと『学び』を高める郡山の教育」を新たに定め、関連する施策や取り組みを推進します。
- 第4期計画の計画期間[R7(2025)年度からR11(2029)年度までの5年間]において、学校教育と生涯学習の両分野を横断し、重点的に取り組む3つの重点分野を設定します。

#### 重点分野

[R7(2025)～R11(2029)年度]

##### 重点分野①

#### ①持続可能な地域の創り手の育成・ESDの推進

→子どもや若者をはじめ、全世代で「学び」に触れる環境づくりを進めるとともに、未来のまちづくりの担い手を育成し、シビックプライドを醸成する好循環を創出します。

##### 重点分野②

#### ②誰一人取り残されない学びの推進

→不登校や特別支援といった一人ひとりの多様な学びを支援する環境づくりをさらに進め、多様な背景を持つあらゆる市民のウェルビーイングを高める包摂的な学びを目指します。

##### 重点分野③

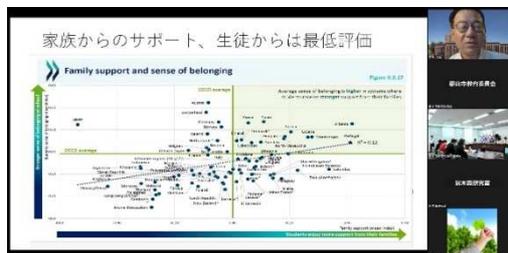
#### ③新たな課題に即応した環境づくり(学びのDXと働き方改革、食育の推進)

→地域と一体となり、教職員や児童生徒のウェルビーイングを実現する学校の働き方改革を加速し、全世代に向けた「学び」の情報発信を強化する学びのDXを進めます。また、全世代の「食べる力」、「生きる力」を育む食育の推進を図ります。

#### (2) 教育とウェルビーイングをテーマにしたウェビナーの開催 7/1(月)

新規

- 審議会の外部ヒアリングの一環として、有識者によるオンラインセミナーを開催、知見を計画策定に取り入れます。
- 「ウェルビーイングを実現する教育の在り方、教育をより良くするための視点とは」と題し、  
東京大学公共政策大学院 <sup>すずき かん</sup>鈴木 寛教授から基



調講演、「ウェルビーイングな学校をつくろう」と題し、  
<sup>なかじま はるみ</sup>埼玉県上尾市立上平小学校 中島 晴美校長から事例発表

- 教職員のウェルビーイングの向上、新たな時代(Society5.0)に求められる人材の育成、児童生徒のウェルビーイングの向上に家庭からのサポートが最大の課題であること、探究活動推進の重要性等を講演

#### (3) 郡山ユースワークショップの実施 7/31(水)

新規

- 中学2年生28名(各校から代表1名)のワークショップを企画、得られた提案や意見を計画策定におけるアイデアやヒントとして活用します。
- 参加生徒から事前課題シートを提出いただき、各参加者の興味関心に基づき、6テーマにグルーピング
- 福島大学人間発達文化学類の <sup>さかもと あつし</sup>坂本 篤史准教授を



モデレーターに迎え、教職課程の大学生メンター6名がグループを取りまとめ。グループワークとグループ発表により、次の100年に向けた未来の教育への提言。

#### 4. 策定スケジュール



#### 5. 郡山ユースワークショップ 「学校のリアルとわたしたちが考える教育の未来 - 郡山市への提言」 提言要旨

グループ名・テーマ	提言要旨
A 「みんなが満足する部活動のかたちとは」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外部指導者を招聘し、先生の負担を減らして、部活動時間を増加</li> <li>● 部活動への参加自体を自由にする。遠距離の生徒も参加しやすいように、途中参加・途中退出の自由を認める。</li> <li>● 大規模校は体育館の使用に限度があるので、地域の体育館を無料開放してほしい。</li> </ul>
B 「いじめのない学校づくりとより良い人間関係や学校生活に向けて」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道徳や学活の時間を利用し、生徒同士が話し合える機会を増やしてほしい。</li> <li>● 他校との情報交換ができるような他校の生徒と交流できる場を増やしてほしい。例) 生徒会役員等がオンラインで交流</li> </ul>
C 「より満足度の高い学校行事・生徒会・委員会活動に向けて」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在、ほとんどの活動が先生の指示により行われているため、活動等に生徒の意見が反映されるよう、先生と生徒が対等に話し合えるようにしてほしい。</li> <li>● 学校内だけではなく、地域住民の方々と交流できる行事を行いたい。</li> </ul>
D 「時代に合った学校のルールづくりとは」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分たちが信頼される大人になるために、みんなが納得する校則づくりをしたい。</li> <li>● 社会全体の常識と学校の教育目標に合致し、自立心や判断力が向上するような校則づくりに向けた基準を作してほしい。</li> </ul>
E 「今求められる地域や他校との交流とは」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各学校や地域の文化を知り、刺激を受け、自分たちのより良い学校づくりにつなげるため、地域や市内外の学校との交流の機会や会場を設けてほしい。</li> <li>● いろんな方々と話をしたり、インタビューをしたりすることで、コミュニケーション能力を鍛えるとともに、新たな知識を習得し、刺激を受けてやる気を出したい。</li> </ul>
F 「持続可能な学校、SDGs の取り組みとは」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● すぐに取り組めること、自分たちだけでは取り組めないことを段階的にクリアしていくようにする。</li> <li>● 取り組みの見える化をしてほしい。(段階に応じた取り組みがどんな影響を与えることができたかを統計として提示し、学校内だけではなく地域でも共有できるようにする。)</li> <li>● SDGs の知識を深める機会を設けてほしい。</li> </ul>